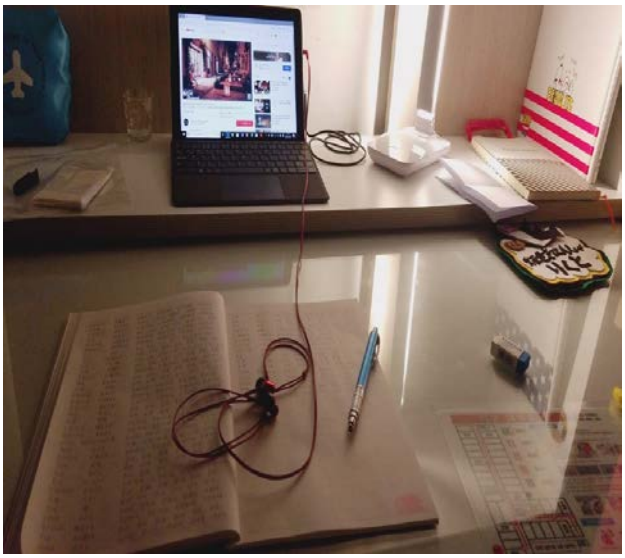
祥明大学校・交換留学後記　～1 年間のまとめ～

文学部　英語英米文学科　竹山陸斗



ここでは私が一年間をどのように過ごしたのか、どんなことを考えて過ごしたのかを少し綴っていこうと思います。

その前に私が韓国に留学しようと決めたのは大学 3 年生の春でした。友達との韓国旅行を通して韓国という国に興味を持ち始めたのがきっかけでした。韓国語の勉強を始め、大学の授業で韓国関係の授業を取るようになると、韓国についてもっと知りたいと思うようになりました。また韓国で 1 年間住みたいという漠然とした考えも持つようになりました。やはりその国について知りたいのならば本や教科書、YouTube などの間接的な情報よりも、実際に住んで韓国を自分の肌で感じて、目で見て、聞いたりする直接的な経験が一番いいと思いました。もちろん交換留学に行くと大学の卒業が 1 年遅れ、社会に出るのも遅れてしまうので、それに対する懸念が無かったという訳ではありませんでした。しかし、それよりも 22 年間生きてきて初めて感じた自発的な衝動を無駄にしたくなかったのと、韓国留学を諦めたことを後で後悔したくなかったので祥明大学校への交換留学を決意しました。一度きりの短い人生、考えるよりも行動に移すのが先だと思ったのです。

祥明大学校での交換留学は振り返ってみると本当にあっと言う間でした。留学から帰ってきた今でも自慢できるほどの韓国語の実力があるとは思いませんが、1 学期は自分の消極的な性格に加えて、韓国語の実力不足のため、1 日 1 日過ごすのが大変だったと記憶しています。授業では先生の話を理解できず、学生との会話では今まで勉強してきたことがまるで嘘かのように言葉が通じず、話も聞き取れませんでした。寮に帰るたびに不安感と自分への失望感で落ち込む日々が続き、全てに対して自信も無くなりました。そんな中、ご飯に誘ってくれた先輩や後輩、同期に幾度もなく助けられました。韓国語もままならなく、消極的な私を寮の中から出してくれたみんなの存在に本当に感謝の気持ちしかありません。今の私がこうして留学後記を書けていられるのはみんなのおかげだと心からそう思います。

1 学期の私はというとほぼ毎日のように図書館に通いました。周りからはせっかく韓国に留学をしに来たのに図書館で勉強するのは留学生活の時間がもったいない、とよく言われました。しかし、私が図書館で勉強をしていたのは外に出たくないから、韓国語を話すのが怖いか

ら図書館に引きこもっていた訳ではありませんでした。少しでもみんなと韓国語で意思疎通ができるように自分なりに考えた結果でした。とはいっても勉強の結果はそう簡単には現れませんでした。いざ話そうとすると頭が真っ白になるのに加えて、発音や表現の間違えに怯えてなかなか口が開きませんでした。間違えたくない、間違えるのが恥ずかしいと考えていたのです。勉強はしているのに何で自分の言いたいことをうまく伝えられないのか悩み、韓国語の勉強をやめようかと思った時もありました。自分の性格が悪いのか勉強の仕方が悪いのか本当に分かりませんでした。それでもどうしても諦めたくなくて、せめて勉強だけは続けるようにしました。

そんな中、ある言葉が私の考え方を変えてくれました。授業が終わってある先輩と休憩していた時のことでした。「陸斗は自信がない、韓国語は陸斗にとって母国語じゃないんだから間違えるのは当たり前だし、周りにいるのは韓国人なんだからちょっと間違えても聞き取れるんだよ。間違えてもいいから自信を持って話すのが大切だ。」と言われました。この言葉を聞いた時、私は初歩的な大事なことを忘れていたと気が付きました。今まで韓国語が話せない、自分の意見が言えないと思っていました。しかし、違いました。間違えを恐れて韓国語を話さない、自分の考えを伝えようと努力をしていないだけだと。つまり問題なのは勉強の仕方ではなく、考え方と心だと気が付いたのです。それでもすぐに実行に移すのは難しかったですが、常にそのことを頭に入れて韓国語に対して向き合うようになりました。

2 学期に入って時間はさらに速さを増しました。学期が始まったと思ったら中間テスト、中間テストが終わったと思ったらすぐに期末テストが始まりました。その間にも熊本県立大学からの文化探訪団、教育実習団の訪問もありました。本来は参加できるものではないのですが、友達や先生に誘ってもらい私も参加、同行させてもらいました。1 週間程度の短い期間でしたが日本の学生との交流はもちろん、韓国の学生とも親しくなれた有意義な時間でした。

1 学期が図書館で勉強するインドアな生活だとすれば、2 学期は外で友達とご飯を食べたり、カフェに行ったり、時にはソウルに遊びに行ったりするアウトドアな生活でした。日本ではどちらかというと私は部屋で過ごすのが好きな学生だったのに加えて、遊ぶにしても、同期の友達としか遊びませんでした。今考えると私は井の中の蛙そのものでした。その世界だけで生きてきたというのは少々大げさですが、本当に狭い世界で生きてきたなと思いました。このように思えるのは 2 学期の生活と周りの友達、そして「国際社会の日本政治」という授業のおかげだと思います。2 学期になって外に出るようになると、自然と友達と話す機会や、新しい友達に会う機会、そして色んな考えや話を聞く機会が増えました。また、国際社会の日本政治の授業では自分が日本人でありながらも日本の政治や歴史について全く知らない事を痛感しました。むしろ韓国の学生の方が知っていたので、自国のことすら知らない自分が恥ずかしくなりました。同時にもう一度、自分が住んでいる日本がどんな国なのか知るために積極的にニュースなどの時事問題に目を向けたいという気持ちが芽生えました。

祥明大学校での留学生活は私の視野を大きく広げてくれました。熊本でそのまま 4 年生として生活して社会に出ていたら…と考えると恐ろしいほどです。初めは韓国で 1 年間住みたい、韓国語の勉強をしたいと思って飛び込んでいった祥明大学校との交換留学は、当初の目的はもちろんのこと、それ以上にこれから社会に出る人間として、人間関係や物事の考え方を大きく変えてくれた 1 年になりました。こんな私を送り出して下さった熊本県立大学の先生方、温かく最後まで見守ってくださった祥明大学校の先生方、そして一緒に遊んでくれたみんなに本当に感謝しています。ありがとうございました。